

学校法人陸学園創立100周年記念講演

兵庫大学・短期大学部や兵庫大学附属須磨/滝高校、神戸国際中学校・高校などを運営する学校法人陸学園が創立100周年を迎えた。学園は次の100年に向けて歴史を築くため、

ザイン2030」を掲げ、記念事業として神戸市中央区の神戸新聞松方ホールで講演会「神戸新聞社共創」を開催、「陸大でマ」の掲げで祝される尾木直樹氏が約570人を前に教育の危機や未来への希望を語り続けた。



和の力で、環を創る。



「未来を拓く教育を考える」をテーマに、尾木直樹氏と参加者らとともに考えを交わす講演会。神戸市中央区、神戸新聞松方ホール

# 学力より人間性が重要

「未来を拓く教育を考える」

教育評論家 法政大学名誉教授

尾木直樹氏

## 子どもを取り巻く四つの危機

「学力が重要」という考えが、世間で定着してしまっている。その結果、子どもを取り巻く四つの危機が生じている。①「学力重視」による「人間性軽視」の危機。②「競争重視」による「協調性欠如」の危機。③「知識重視」による「実践力不足」の危機。④「教員重視」による「多様性軽視」の危機。



「人間性」とは、人と人との関係の中で生きていくための力。学力だけでは生きていけない。人間性を育てるには、協調性を育て、実践力を育て、多様性を認める必要がある。



尾木直樹氏は、教育評論家として、教育の現状を鋭く批判し、未来の教育を提言している。講演会では、子どもを取り巻く四つの危機について詳しく話した。

## 比べるべきは他人でなく過去の自分



「考える」とは、自分自身と向き合うこと。他人と比べて、過去の自分と比べて、成長を測るべき。自分自身と向き合うことで、本当の強みを知ることができる。

「考える」とは、自分自身と向き合うこと。他人と比べて、過去の自分と比べて、成長を測るべき。自分自身と向き合うことで、本当の強みを知ることができる。

## 聴く力持ち共感できる大人に

「聴く力」とは、相手の話をしっかりと聴くこと。共感できる大人になることで、子どもとの関係が良くなる。聴く力を持つことで、子どもの心の中を見ることができ、適切なサポートができるようになる。

学校法人陸学園 理事長 河野真氏



河野氏は、陸学園の発展に尽力している。教育の重要性を説き、子どもたちの未来を託している。

兵庫大学が今春、教育学部 新設 時代に対応する人材育成 一人ひとりの個性を伸ばす。未来を拓く教育。子どもたちの未来を託している。

陸学園グランドデザイン2030の全体像

- 使命・目的: 一陸学の精神「和」
- ビジョン: 一陸学の基本目標「地域に定着する陸学園を重視する陸学園」
- 戦略: 陸学園グランドデザイン2030ビジョン 和をつながら、信を伸ばす。
- 行動計画: 陸学園グランドデザイン2030 2030年に達成する姿

1. 人間教育 2. 教育研究 3. 国際化推進 4. 社会連携 5. 経営革新 6. 施設整備 7. 教育の質と量 8. 資力の向上 9. 地域に根ざり 10. 多様な人材の育成 11. 協働 12. 持続可能な社会の実現

各部門中長期計画 各部門各年度事業計画

陸学園は、おかげさまで2023年に創立100周年を迎えます。建学の精神である「和」を礎として人と人、そして地域の皆様とのつながりを大切に子どもたちの豊かな成長をともに実現してきました。次の100年に向け、これらも学園全体がさらに志をひとつにし「和」の力で、さらに大きな人々の「和」へ、未来の新しい教育と地域社会の発展をともに創造していきます。

MUTSUMI GAKUEN